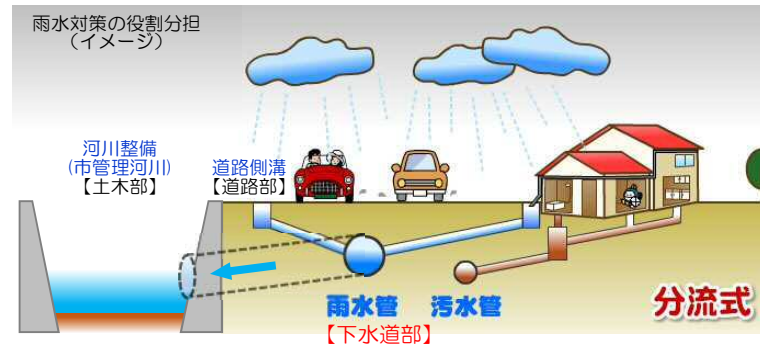


静岡市雨水総合排水計画の更新【下水道】

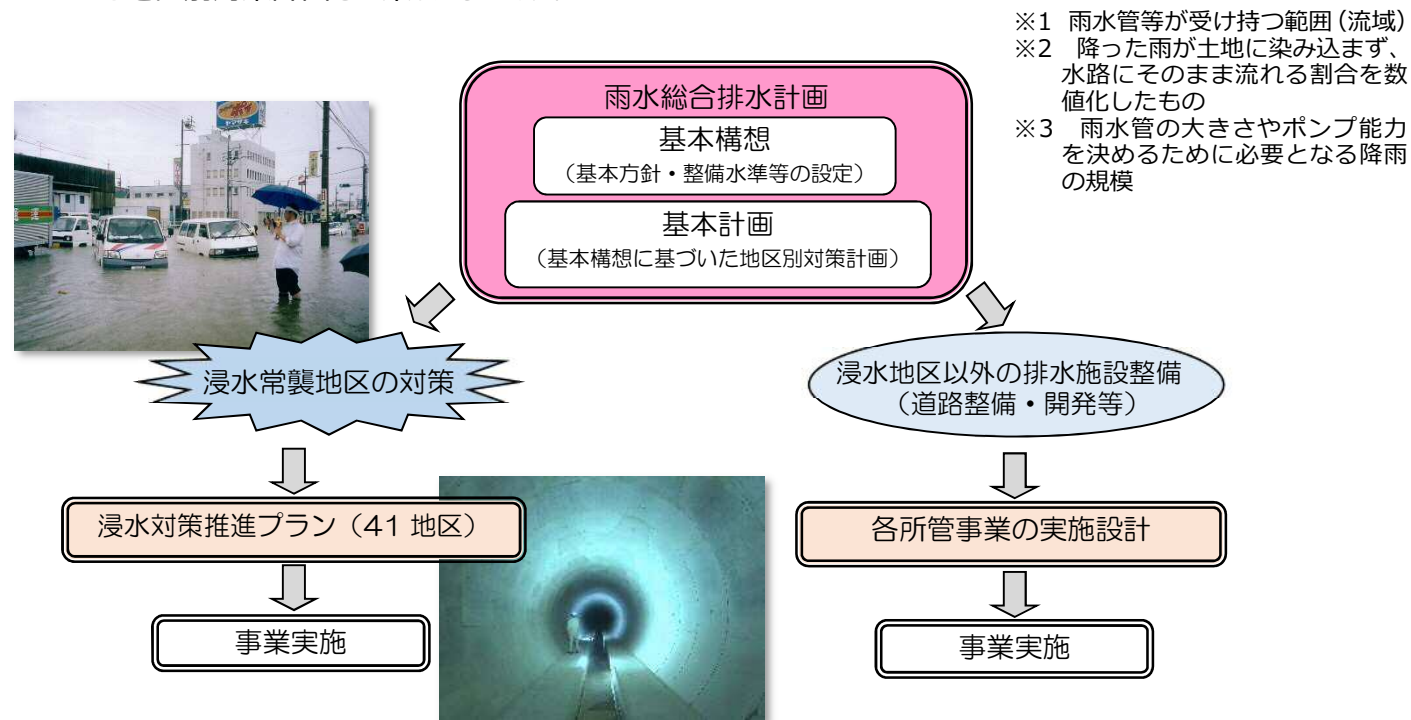
1. 静岡市の雨水対策

本市の雨水対策は下水道部と土木部(河川)が中心となり整備を進めています。



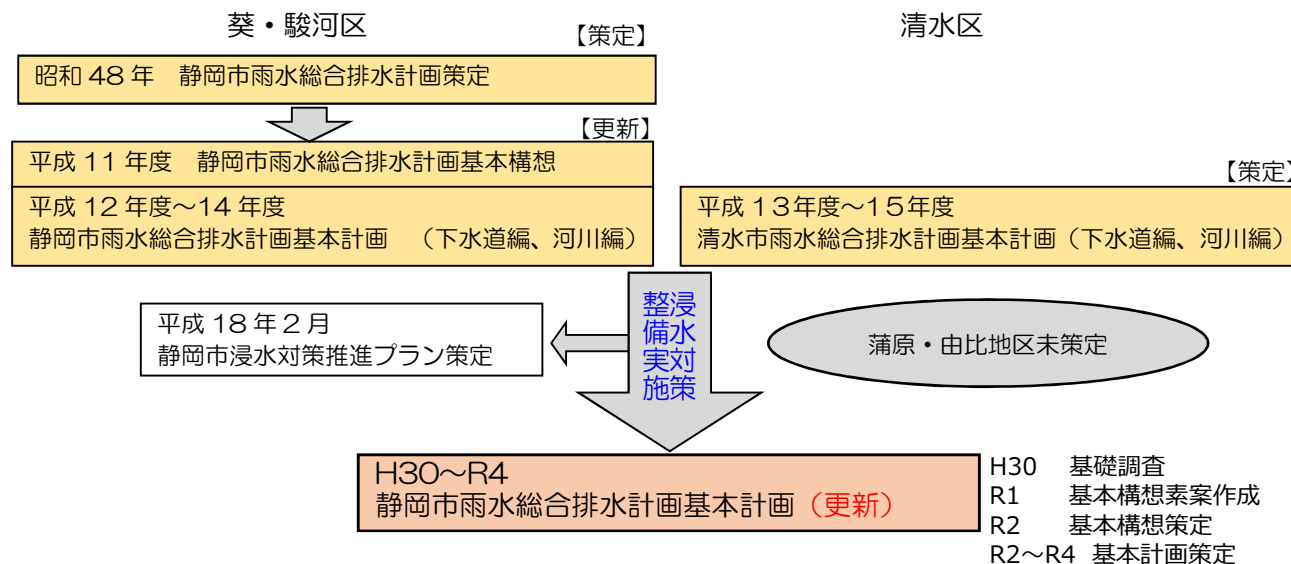
2. 静岡市雨水総合排水計画について

静岡市雨水総合排水計画は、雨水対策に係る基本的な方針等を定めたもので、本市雨水計画のマスタープランであり、排水区域※1や流出係数※2、整備水準※3等の雨水整備に必要とされる条件を定め、その条件に基づき地区別対策計画を立案したものです。



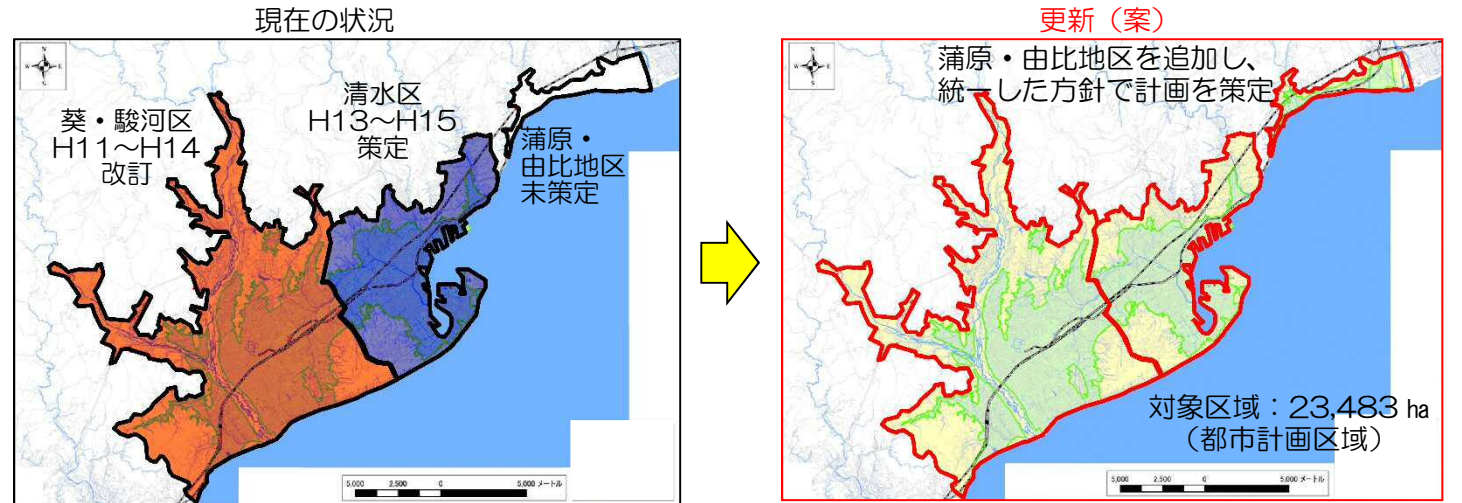
- ※1 雨水管等が受け持つ範囲(流域)
- ※2 降った雨が土地に染み込まず、水路にそのまま流れる割合を数値化したもの
- ※3 雨水管の大きさやポンプ能力を決めるために必要となる降雨の規模

【計画の変遷】



3. 現在の状況と計画の更新

① 対象区域と整備基準の統一



② 整備水準の見直し(どの程度の降雨を基準にした施設整備をするか決める)

現在の状況

- ・現在、治水安全度 7年確率、66.8 mm/h の降雨に対する施設整備を進めており、整備が完了した地区では、これまでの大きな降雨に対して効果が出ている。(国の指針では、5~10年確率となっている) 【裏面資料2・3】
- ・気候変動等の影響により「激しい雨」(時間雨量 50 mm/h を超える降雨)の回数が増加している。 【裏面資料4】
- ・現行計画は策定から 20年近く経過しており、当時設定した計画降雨を見直す必要がある。 【裏面資料5】

更新(案)

目標治水安全度は7年確率を基本とし、計画降雨については近年の降雨状況を反映させた最新値を採用する。なお、長期計画段階で浸水発生時に社会的影響が大きい地区を10年確率へレベルアップする。

現行計画 66.8 mm/h ⇒ 更新(案) 70.2 mm/h (7年確率降雨)
 (72.4 mm/h ⇒ 75.3 mm/h 10年確率降雨)

③ 段階的整備計画

現在の状況

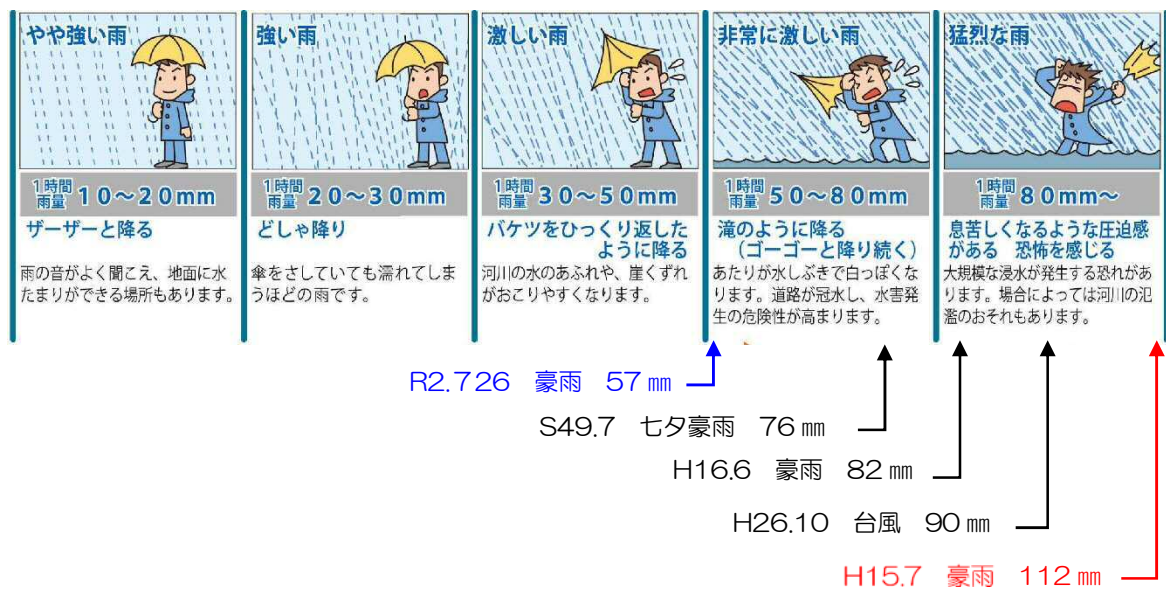
- ・「浸水対策推進プラン」における対策未完了地区がある。(未完了地区 17地区：R1未)
- ・「浸水対策推進プラン」における対策地区以外でも小規模な浸水被害が発生している。
- ・都市化の進展や気候変動等により、これまで浸水が無かった地域でも浸水が想定される。
- ・これまで実施してきた浸水対策事業の効果を評価し、限られた財源の中で既存ストックを活用した今後の整備計画を明確にする必要がある。

更新(案)

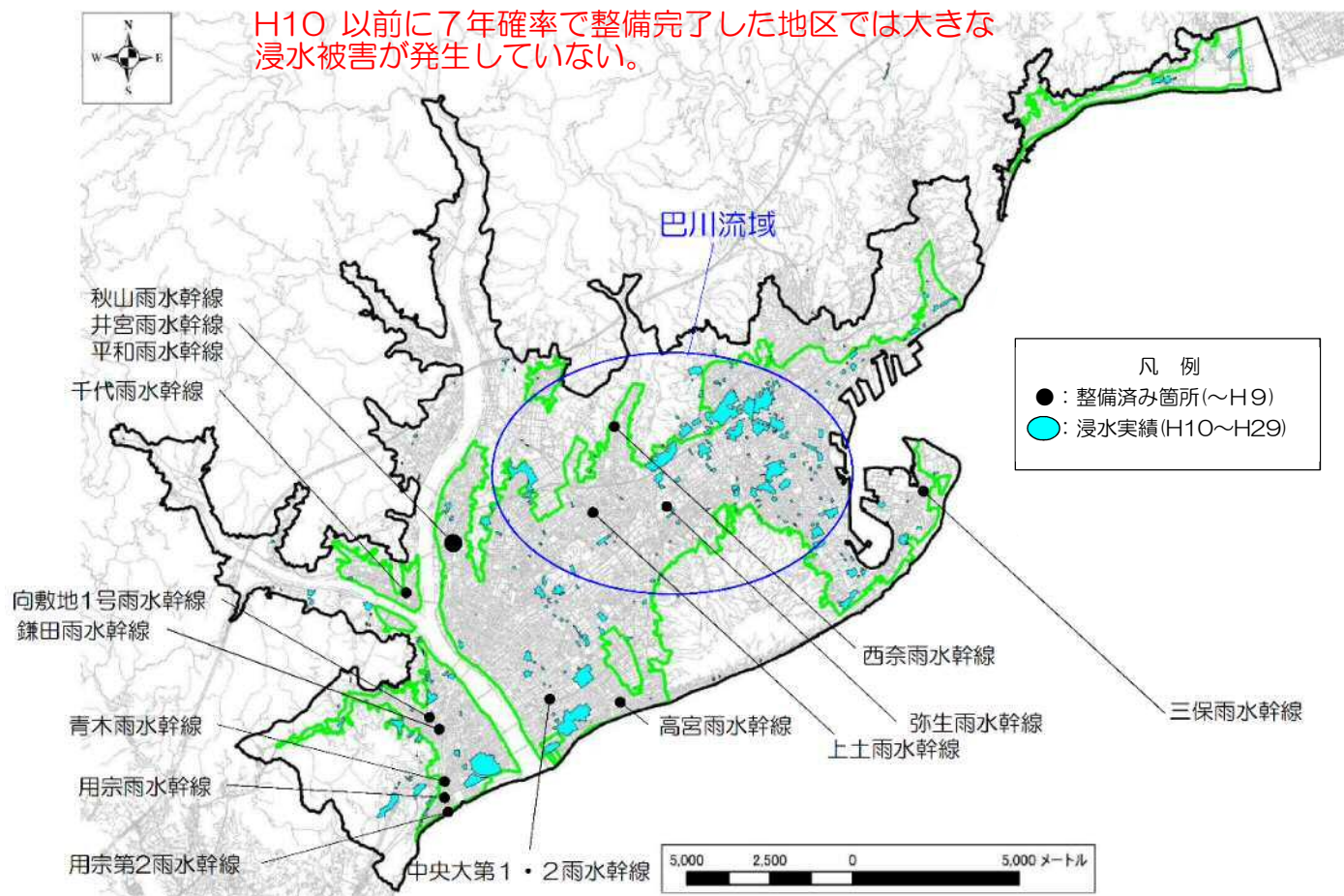
- ・令和12年までに「浸水対策推進プラン」未完了地区の完成を目指します。
- ・令和12年以降は、浸水実績に加え浸水が想定される地区等、浸水リスク高い地区から順次、対策を進めます。
- ・更に、令和22年度からは、浸水発生時に社会的影響が大きい地区(集約化拠点形成区域)の整備水準を引き上げます。

	R3	R12	R22	R52
計画目標年度	短期計画	中期計画	長期計画	
		フォローアップ	次回基本構想見直し予定	
目標治水安全度	7年確率降雨(一般地区)	7年確率降雨(一般地区)	7年確率降雨(一般地区) 10年確率降雨(重点地区)	
計画降雨	70.2mm/h (整備中の場合は66.8mm/h)	70.2mm/h	70.2mm/h(一般地区) 75.3mm/h(重点地区)	
対策地区	浸水対策推進プラン未完了地区	浸水リスク(浸水実績・浸水想定)の高い地区	浸水リスクがあるが中期計画地区に比べリスクが高い地区 上記のうち都市機能が集積している地区	

【資料1】 雨の強さと過去の大きな降雨

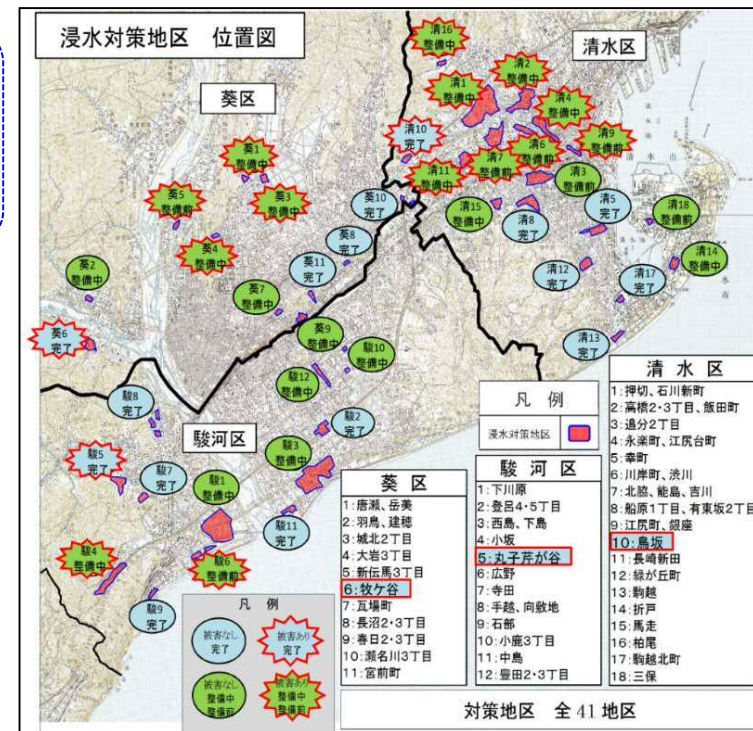
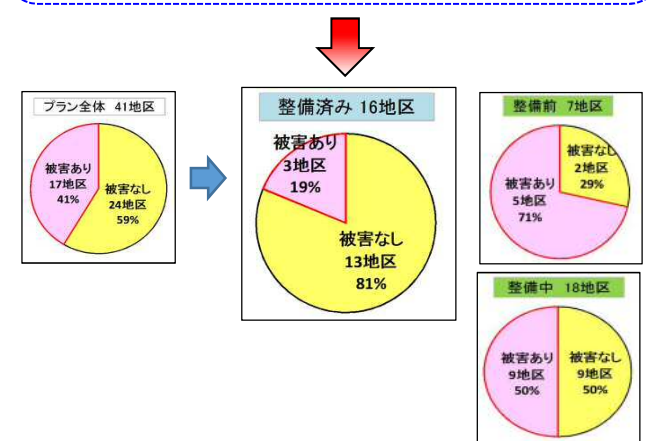


【資料2】 H9までの整備済み地区とH10以降の浸水発生箇所（H10~H29）



【資料3】 H26 台風 18号における7年確率整備の検証

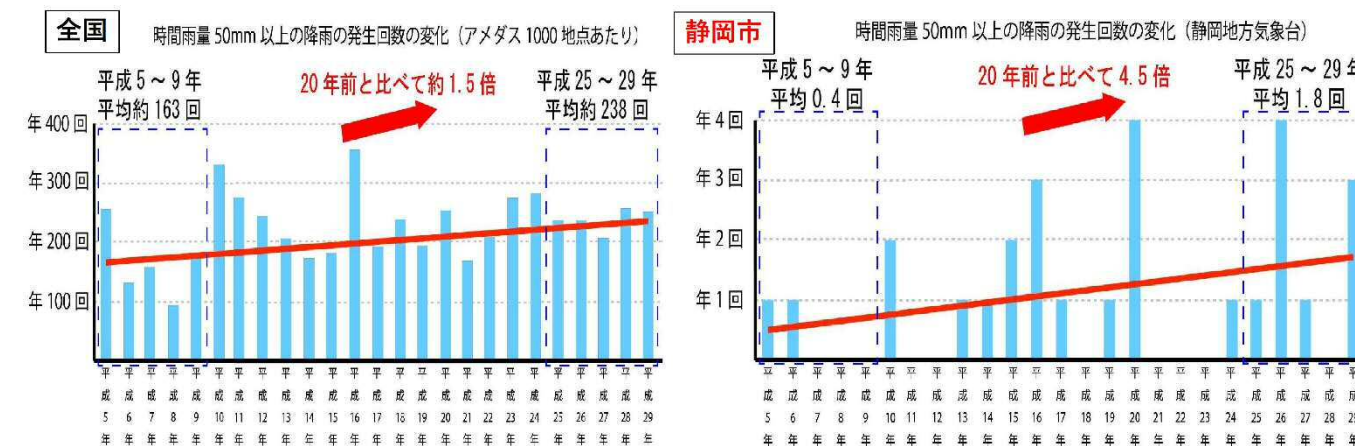
整備水準 66.8 mm/h(7年確率)を超える降雨であったが、整備完了地区では建物等への浸水被害が確認されなかった。
※山からの土砂流出により水路が閉塞され浸水被害が発生した地区が3地区あった。



台風 18号の特徴

- ・平野部より市街地に近い山間部で強い雨が降った。
 - ・巴川流域平均の雨量は、総雨量 393 mm、24 時間最大雨量は 362 mmが観測され、特に葵区平山の県雨量観測所では、総雨量 471 mm (セタ豪雨に次ぐ 2 番目)、時間最大雨量 90 mm (H15 豪雨に次ぐ 2 番目) の記録であった。
 - ・まとまった雨が長時間降り続いた後の降雨末期に強い降雨があった (後方集中型の降雨)
- ⇒ 浸水対策推進プランにおける整備水準を大幅に超える降雨であった

【資料4】 雨の降り方の変化 (H5~H29)



【資料5】 計画降雨の変化

静岡県降雨の確率	対象データ (静岡地方気象台)	7年確率 計画降雨 (mm/h)	10年確率 計画降雨 (mm/h)
H3改訂版	S20~H2 46年分	65.0	70.0
H8改訂版	S20~H7 51年分	66.8	72.4
H30 今回	S20~H29 73年分	70.2	75.3

・雨水総合排水計画
・浸水対策推進プラン
・今回採用(案)

同じ確率年の降雨であっても、27年前と比べ約 5 mm/h 増加している。